

資料 5 – 1

アンケート調査の結果概要 (18歳以上)

速報値

● 市民（18歳以上）アンケート調査の概要

【調査目的】

- ・幅広い世代の市民の意識を計画に反映するため
- ・まちづくりの満足度・重要度や世代を超えて共通する価値観、安芸高田市の将来の方向性などを把握

【調査対象】

- ・市内に居住する18歳以上の方が対象

【調査方法】

- ・住民基本台帳から無作為抽出し、郵送配布・回収

※調査票はWEB回答（QRコードを付与）を推奨とし、紙回答も可

【調査時期】

- ・令和6（2024）年12月・令和7（2025）年1月

● 中学生アンケート調査の概要

【調査目的】

- ・次世代を担う子どもたちの意見を計画に反映するため
- ・高校卒業後、一度市外に出ても戻ってきたくなる、住み続けたい安芸高田市の将来の方向性などを把握

【調査対象】

- ・市内の中学校に通学する学生が対象

【調査方法】

- ・中学校経由により、アンケート調査票（WEB）を中学生に配布・回収

【調査時期】

- ・令和6（2024）年12月

● 高校生アンケート調査の概要

【調査目的】

- ・次世代を担う子どもたちの意見を計画に反映するため
- ・高校卒業後、一度市外に出ても戻ってきたくなる、住み続けたい安芸高田市の将来の方向性などを把握

【調査対象】

- ・①市内の高校に通学する学生、②市外の高校に通学する学生（市内居住）が対象

【調査方法】

- ・①は高校経由により、アンケート調査票（WEB）を高校生に配布・回収
- ・②は市民アンケート調査の付帯調査として、配布・回収

【調査時期】

- ・①は令和6（2024）年12月・令和7（2025）年1月
- ・②は令和7（2025）年2月

- ・回収数、回収率及び標本誤差は以下のとおりです。（残り400サンプル程度が未反映）
- ・全体では標本誤差5%未満を達成しており、年齢別・地区別にみても、標本誤差10%未満を達成しています。

■回収数（18～29歳、30～39歳を18～39歳に集約）

（単位：人）	総数（18歳以上）	18-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
安芸高田市（全体）	1098	141	110	154	267	273	153
吉田地区	184	33	26	30	37	36	22
八千代地区	170	20	17	20	35	42	36
美土里地区	170	17	11	35	39	43	25
高宮地区	191	21	12	25	52	54	27
甲田地区	185	25	21	19	58	44	18
向原地区	198	25	23	25	46	54	25

■回収率（18～29歳、30～39歳を18～39歳に集約）

（単位：％）	総数（18歳以上）	18-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
安芸高田市（全体）	22.0	16.9	17.8	25.1	29.3	27.1	15.1
吉田地区	22.1	17.5	20.3	24.9	26.3	24.1	20.9
八千代地区	20.4	15.5	18.1	23.5	25.0	24.4	16.9
美土里地区	20.4	12.3	11.0	33.0	24.2	27.1	14.7
高宮地区	22.9	17.6	15.4	22.7	33.8	32.6	13.1
甲田地区	22.2	17.9	17.9	20.5	36.0	26.0	11.7
向原地区	23.8	20.7	22.5	25.1	29.6	28.2	15.3

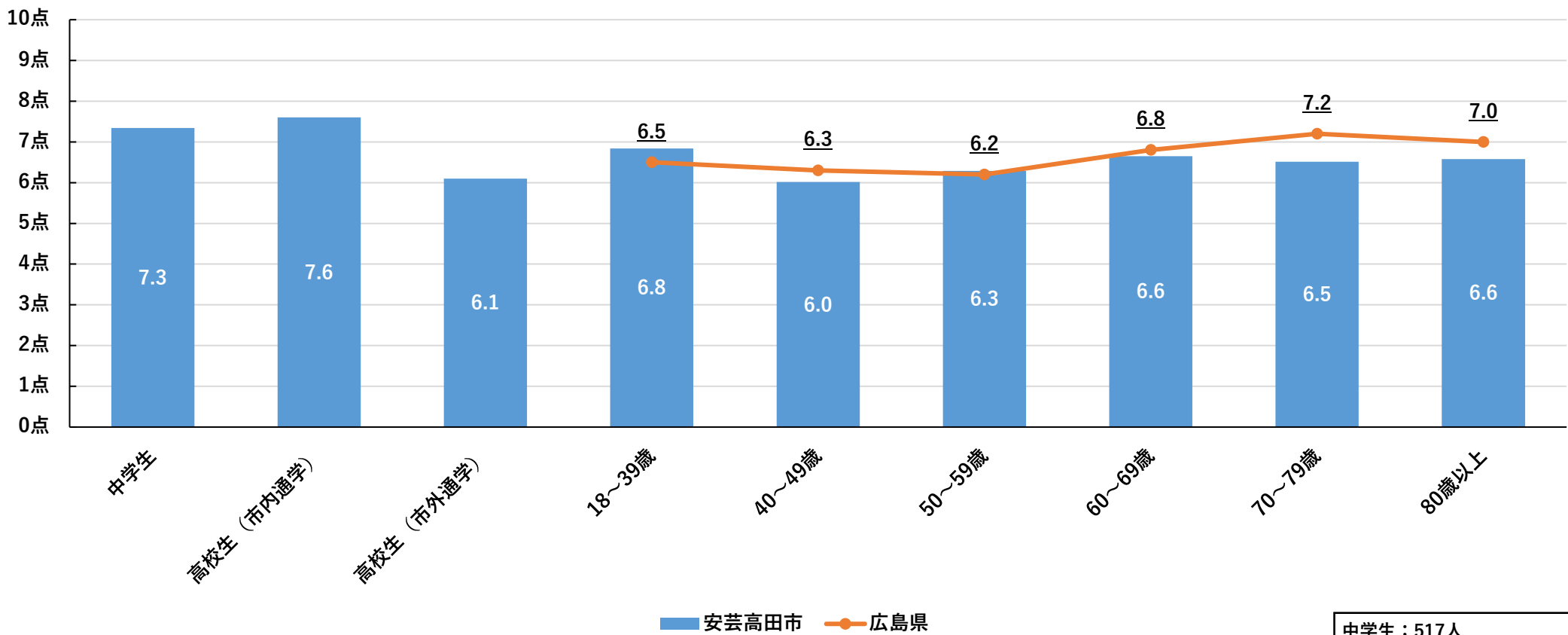
■標本誤差（18～29歳、30～39歳を18～39歳に集約）

	総数（18歳以上）	18-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
安芸高田市（全体）	2.9%	8.1%	9.2%	7.7%	5.8%	5.8%	7.8%
吉田地区	7.1%	16.9%	19.0%	17.7%	15.9%	16.1%	20.7%
八千代地区	7.3%	21.5%	23.2%	21.3%	16.0%	14.7%	16.0%
美土里地区	7.2%	23.2%	28.9%	15.4%	14.9%	14.1%	19.0%
高宮地区	6.8%	20.8%	27.6%	18.9%	12.8%	12.6%	18.5%
甲田地区	7.0%	19.2%	21.0%	22.0%	12.4%	14.4%	22.8%
向原地区	6.7%	19.1%	19.8%	18.9%	13.9%	12.8%	19.2%

- ・幸福度は高校生（市内通学）が7.6点（平均値）と最も高く、40～49歳が6.0点（平均値）と最も低いです。
- ・全体として、幸福度は世代が上がるほど、下降する傾向にあります。

問：現在、あなたはどの程度幸せと感じますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、該当するものをお選びください。

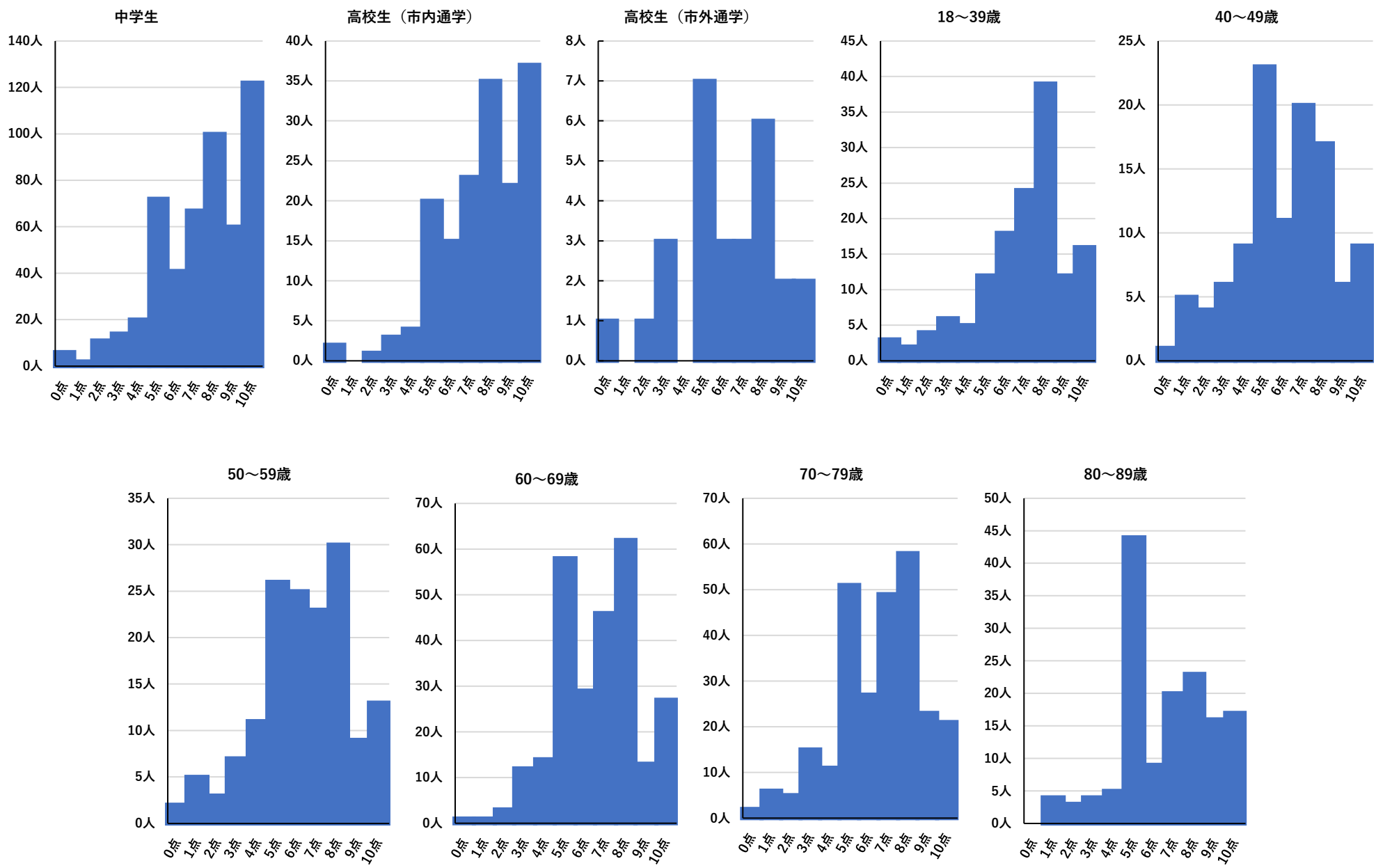
■幸福度（平均値）の比較



中学生：517人
高校生（市内通学）：162人
高校生（市外通学）：28人
18～39歳：141人
40～49歳：111人
50～59歳：154人
60～69歳：266人
70～79歳：268人
80歳以上：145人

注：広島県（2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査）、安芸高田市（市民アンケート）
出典：デジタル庁『2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査』

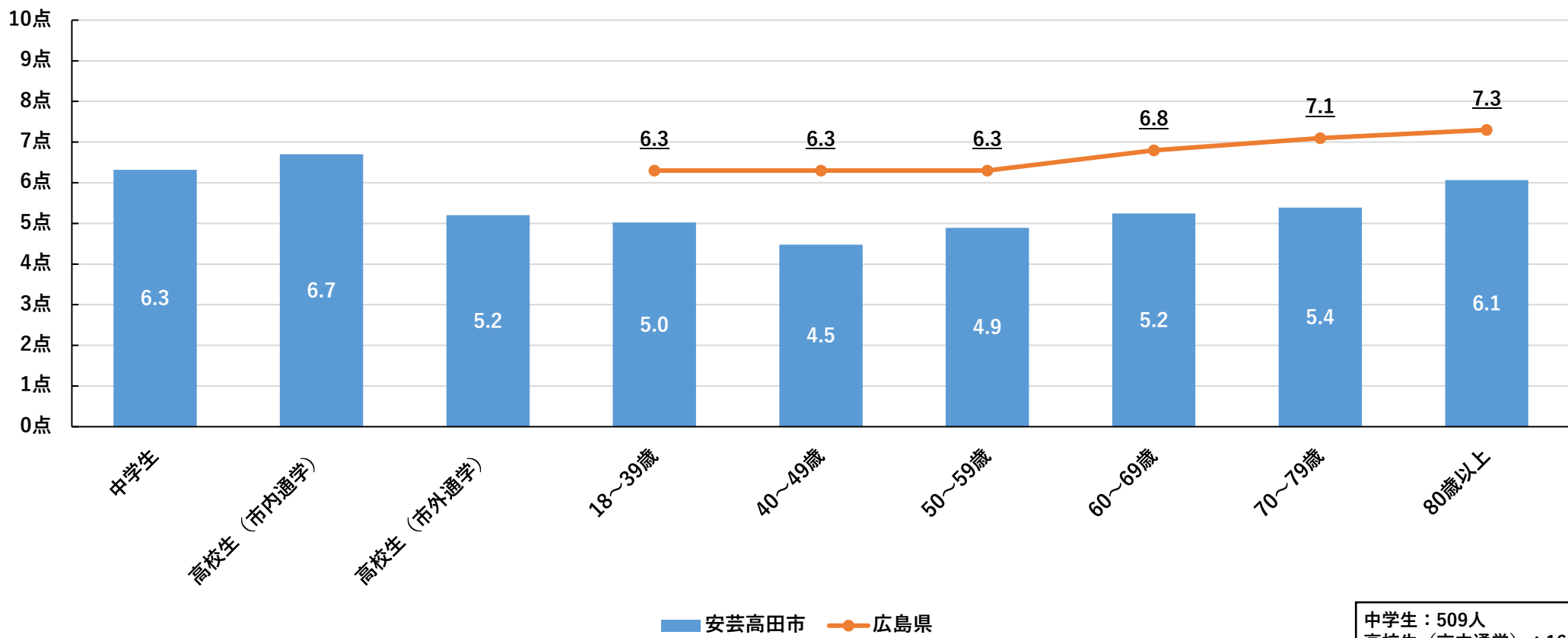
■幸福度分布（ヒストグラム）



- ・満足度は高校生（市内通学）が6.7点（平均値）と最も高く、40～49歳が4.5点（平均値）と最も低いです。
- ・全体として、満足度は世代が上がるほど下降し、50歳から再び上昇する傾向にあります。

問：現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点として、該当するものをお選びください。

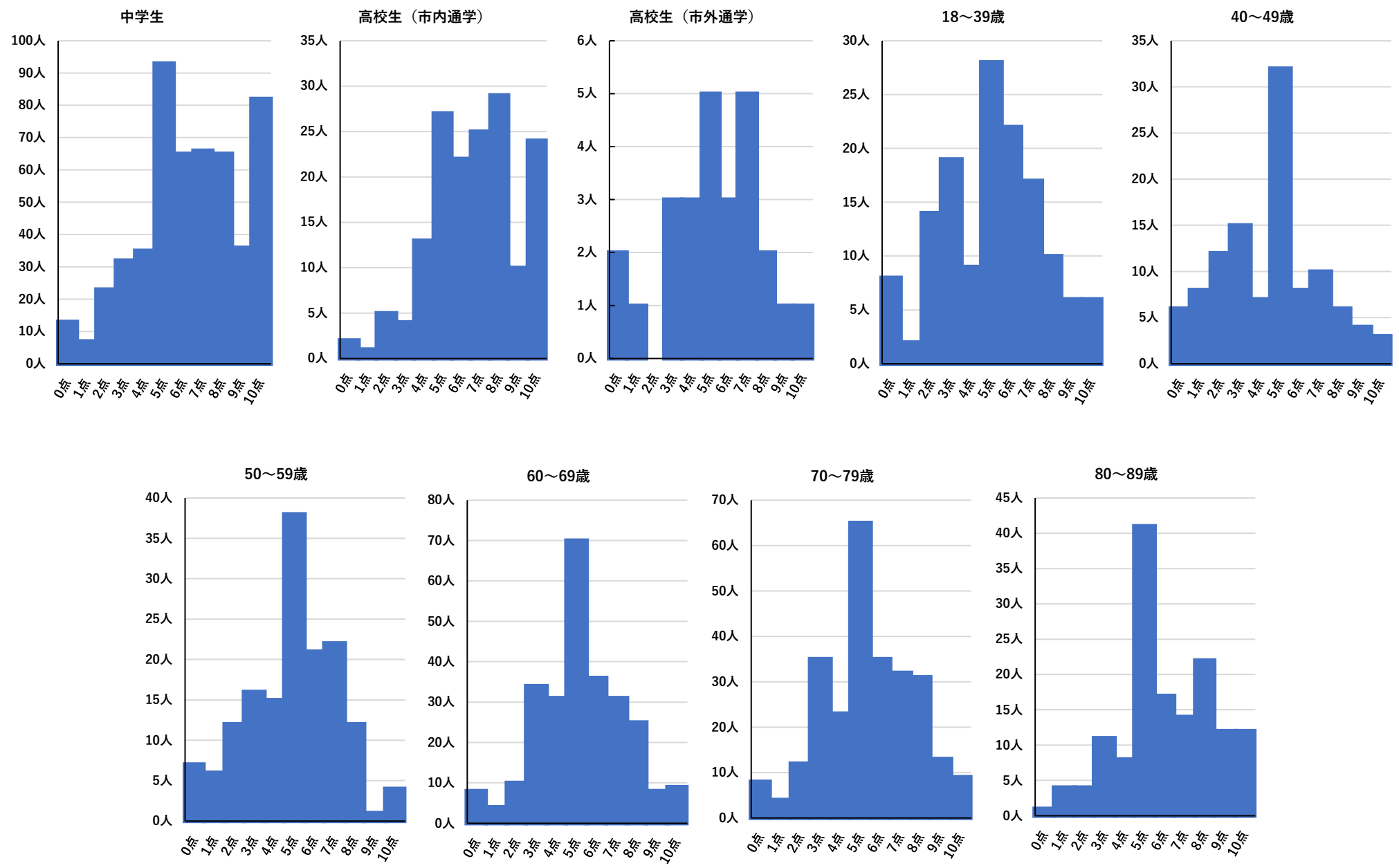
■満足度（平均値）の比較



中学生：509人
高校生（市内通学）：162人
高校生（市外通学）：26人
18～39歳：141人
40～49歳：111人
50～59歳：154人
60～69歳：266人
70～79歳：267人
80歳以上：146人

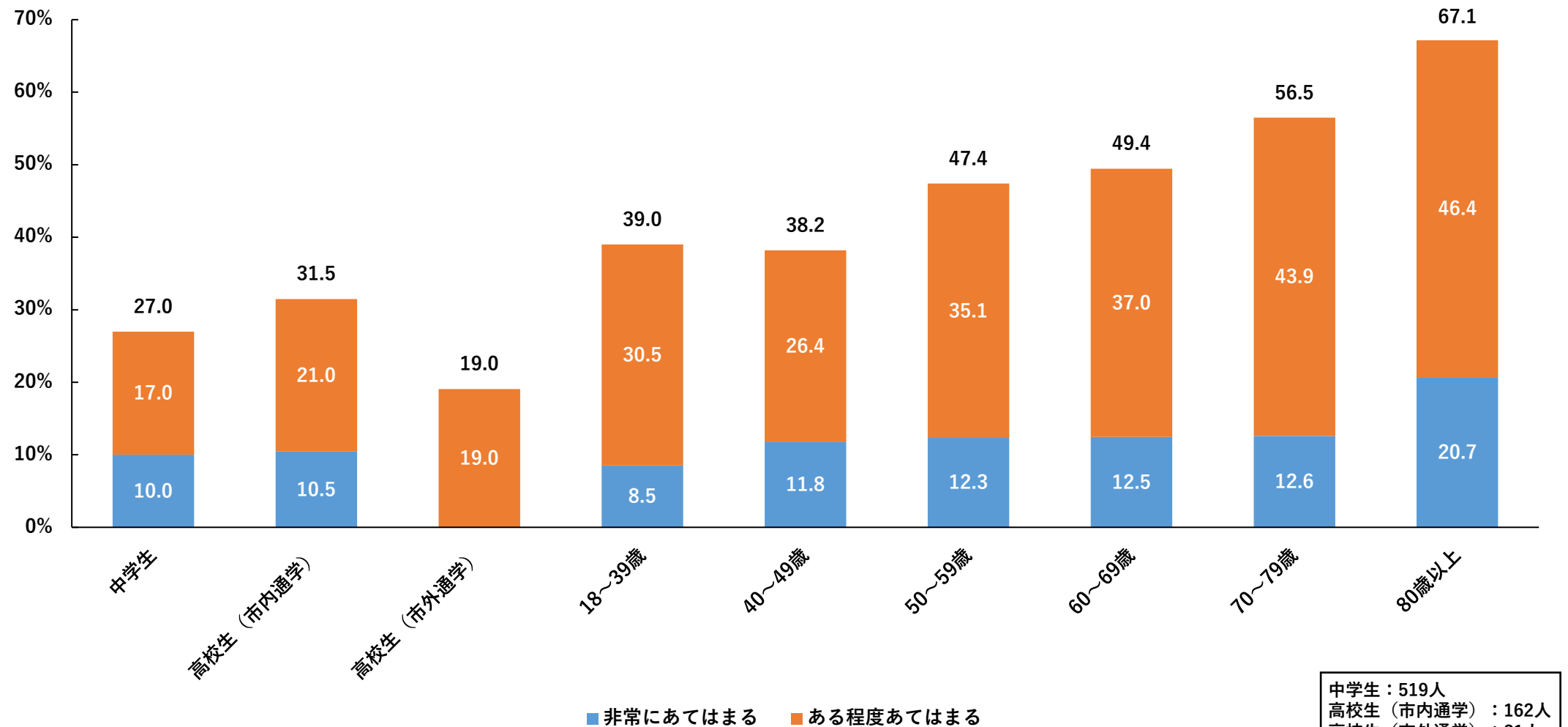
注：広島県（2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査）、安芸高田市（市民アンケート）
出典：デジタル庁『2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査』

■満足度分布（ヒストグラム）



・高校生（市外通学）を除き、世代が上がるほど、地域愛着の割合は高い傾向にあります。

問：あなたの地域への愛着について、該当するものをお選びください。私は暮らしている地域にずっと住み続けたい。



中学生：519人
高校生（市内通学）：162人
高校生（市外通学）：21人
18～39歳：141人
40～49歳：110人
50～59歳：154人
60～69歳：265人
70～79歳：262人
80歳以上：140人

- ・世代を問わず、「自然」・「地域」を地域にいつまでも変わって欲しくないキーワードとしてあげています。
- ・「神楽」・「行事」という文化に関連するキーワードも上位に頻出しています。

問：あなたが考える「地域にいつまでも変わって欲しくないもの」について、具体的に記載してください。

頻出 キーワード	中学生	高校生 (市内通学)	高校生 (市外通学)	18～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
1位	自然 (7.4%)	自然 (8.7%)	神楽 (9.1%)	神楽 (5.7%)	自然 (2.2%)	自然 (4.2%)	地域 (4.1%)	地域 (4.1%)	地域 (3.8%)
2位	地域 (5.6%)	雰囲気 (8.7%)	郷野 (4.5%)	自然 (5.7%)	文化 (1.8%)	地域 (3.8%)	自然 (3.2%)	環境 (2.3%)	行事 (2.7%)
3位	神楽 (4.4%)	地域 (6.0%)	教育施設 (4.5%)	地域 (5.2%)	地域 (1.8%)	集落 (1.7%)	神楽 (1.8%)	神楽 (1.8%)	人情 (1.6%)

注：頻出キーワード下の括弧内は頻出キーワードの出現割合です。

中学生：224人

高校生（市内通学）：90人

高校生（市外通学）：4人

18～39歳：52人

40～49歳：36人

50～59歳：54人

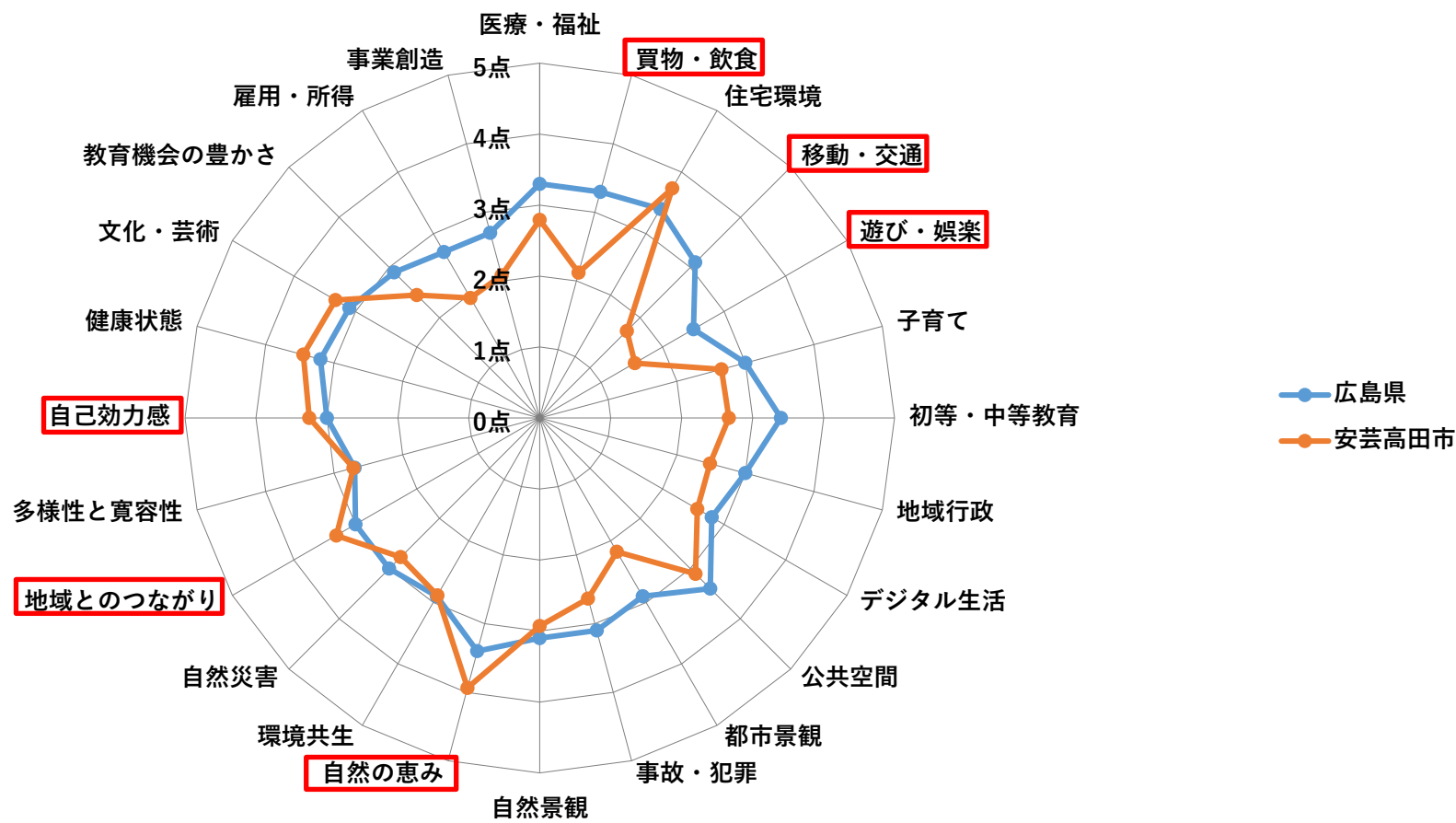
60～69歳：77人

70～79歳：62人

80歳以上：43人

・安芸高田市の主観因子（平均値）は、広島県と比較すると、「自然の恵み」、「地域とのつながり」、「自己効力感」等が高く、「移動・交通」、「遊び・娯楽」、「買物・飲食」等で低いです。

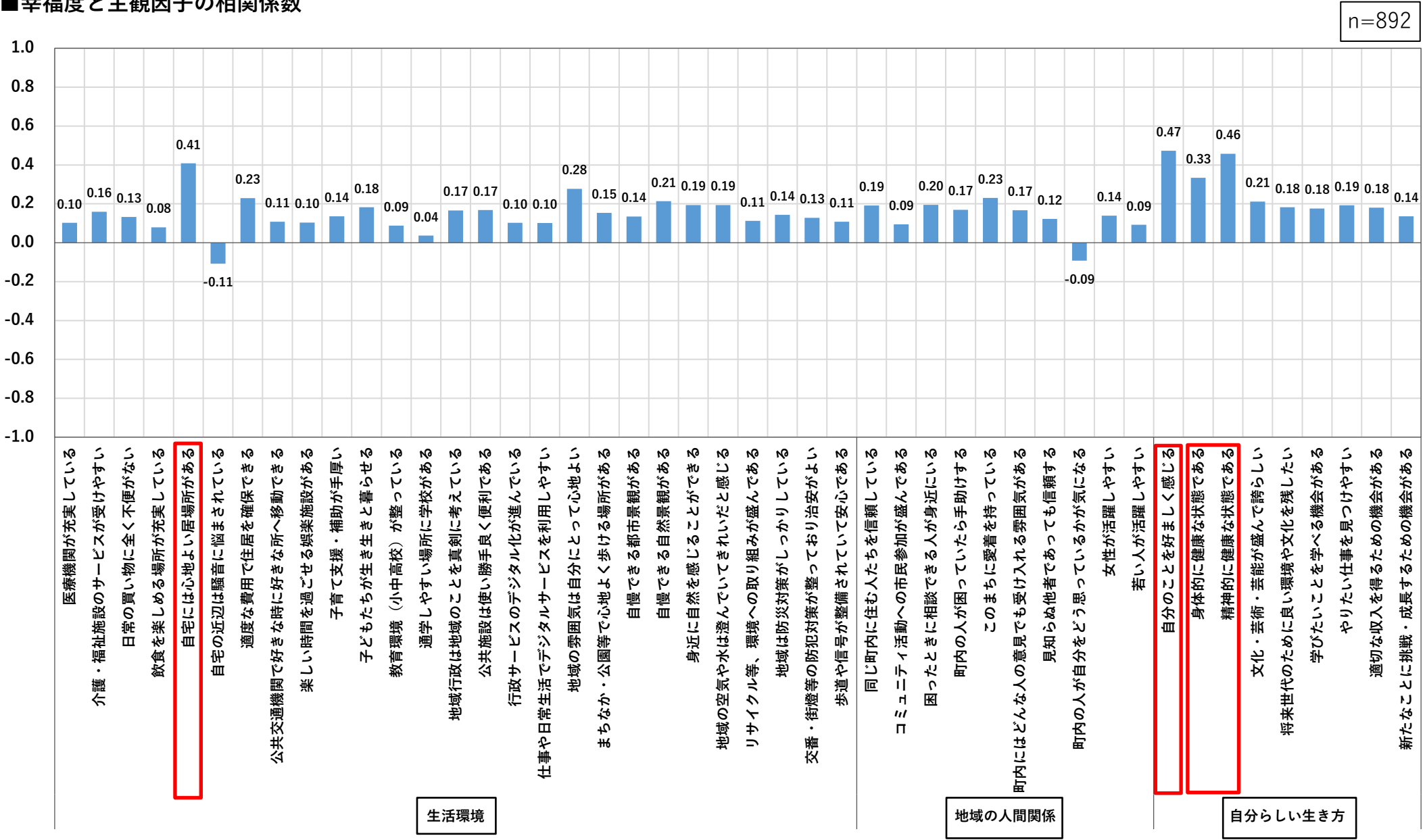
■広島県及び安芸高田市の主観因子（平均値）の比較 ※点数が高い程当該分野の評価が高い



注：広島県（2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査）、安芸高田市（市民アンケート）
出典：デジタル庁『2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査』

・幸福度と主観因子の相関係数をみると、「自宅に心地よい居場所がある」、「自分のことを好ましく感じる」、「身体的・精神的に健康な状態である」の主観因子において、相関係数が相対的に高いです。

■幸福度と主観因子の相関係数



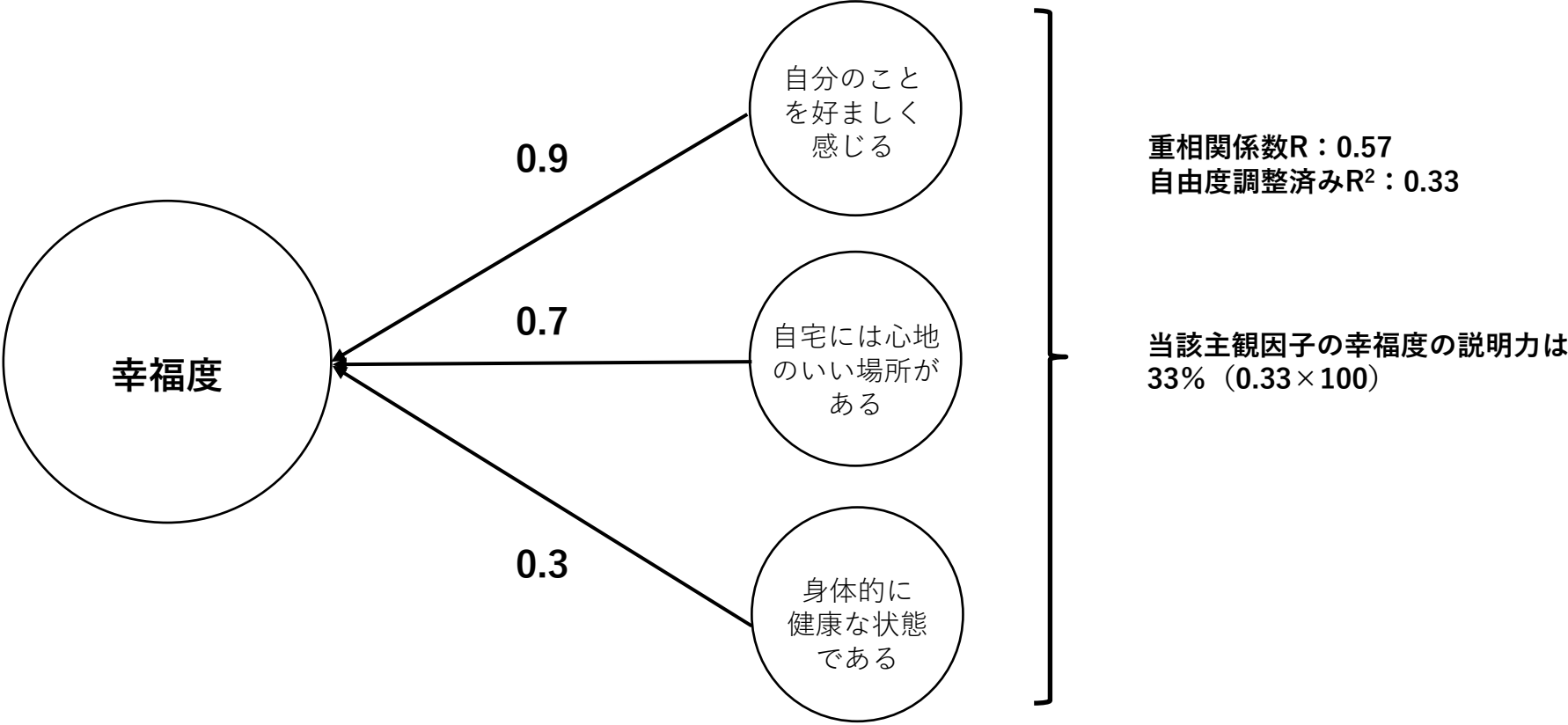
- ・ 満足度と主観因子の相関係数をみると、「地域の雰囲気心地よい」の主観因子の相関係数が最も高いです。
- ・ 幸福度と比較して、満足度は全体的に「生活環境」に係る主観因子との相関係数が高い傾向にあります。

■満足度と主観因子の相関係数



- ・幸福度と主観因子の重回帰分析の結果より、主観因子の幸福度への影響度は以下のとおりです。
- ・幸福度への影響度は、「自分のことを好ましく感じる」主観因子が最も高いです。

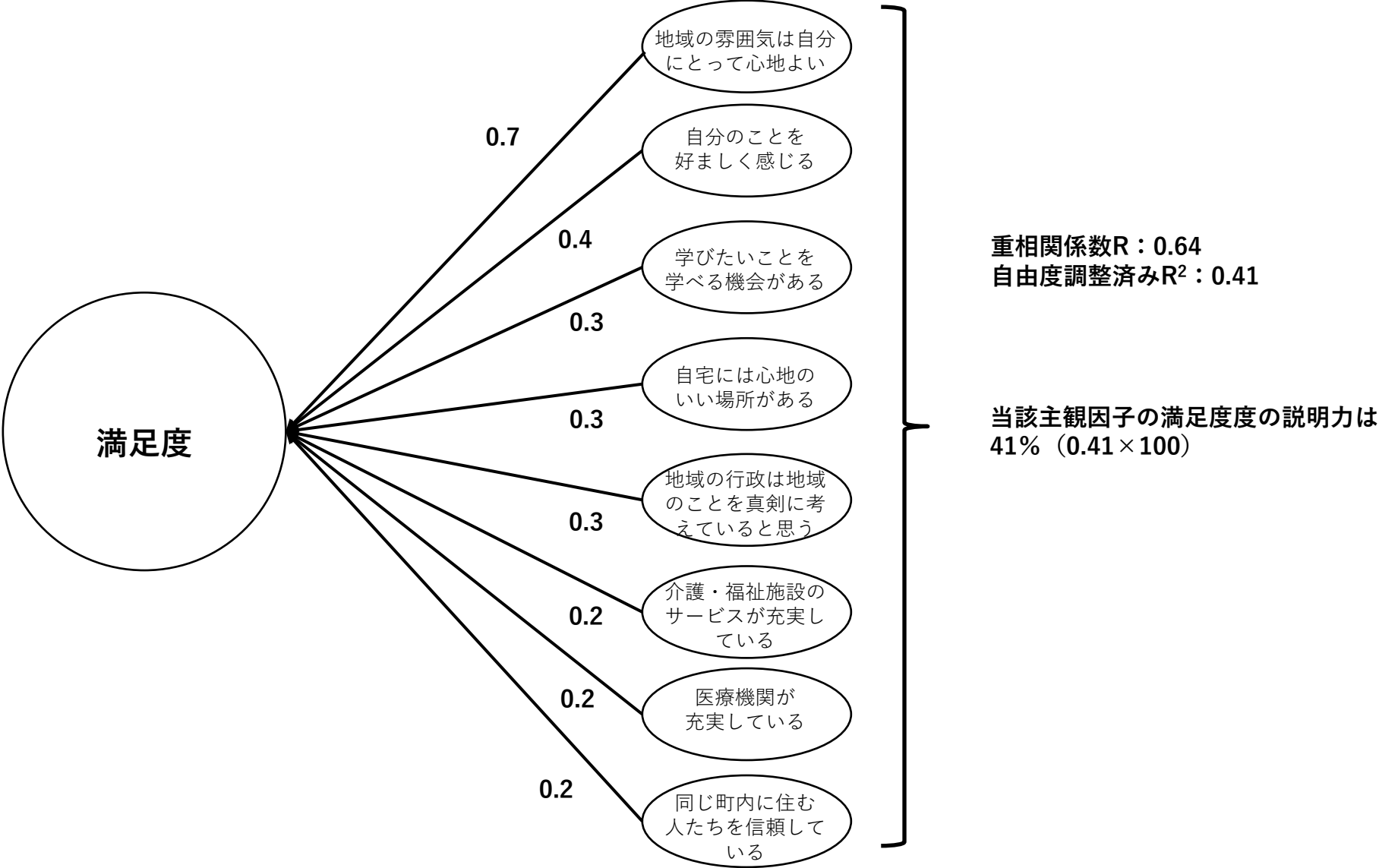
■主観因子の幸福度への影響度（幸福度を被説明変数、主観因子を説明変数とした重回帰分析の結果の偏回帰係数）



注：幸福度との相関係数が0.3以上の主観因子を抽出、その上で主観因子同士の相関係数0.5以上のペアは片方の主観因子を落とし、重回帰分析を実施しています。

・満足度と主観因子の重回帰分析の結果（決定係数は0.41）より、満足度に影響を与える主観因子は以下に示す指標であり、満足度に対する重要度は「地域の雰囲気は心地よい」主観因子が最も高く、「医療機関の充実」や「介護・福祉施設のサービスの受けやすさ」等の生活利便施設に関わる主観因子の重要度も高いことがわかります。

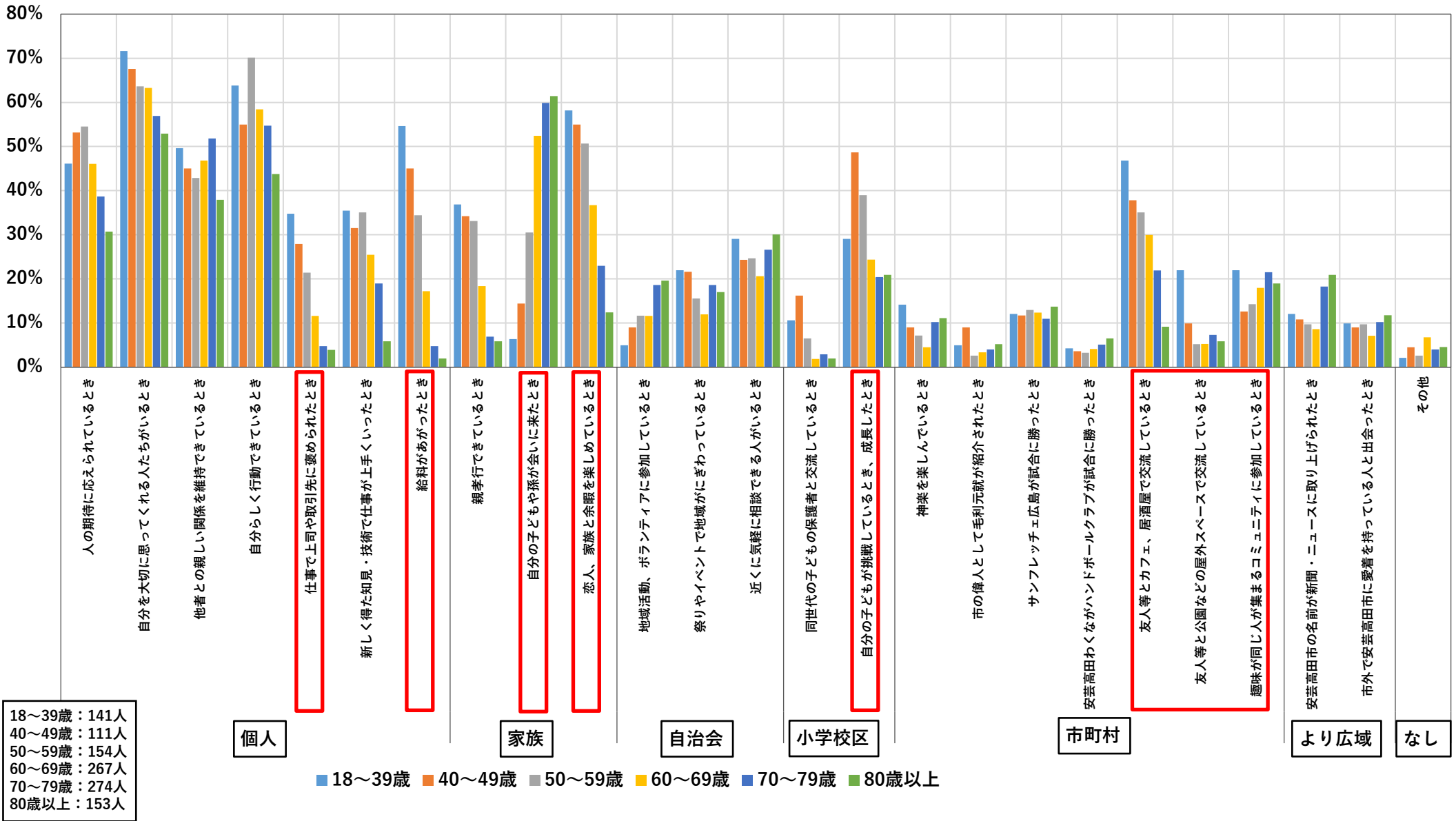
■満足度に対する重要度（重回帰分析の係数）の高さ（被説明変数＝満足度、説明変数＝主観因子とした重回帰分析による結果）



注：満足度との相関係数が0.3以上の主観因子を抽出、その上で主観因子同士の相関係数0.5以上のペアは片方の主観因子を落とし、重回帰分析を実施しています。

- ・ 個人が幸福を感じる時は、世代に関わらず、個人に関わる設問で回答割合が高い傾向にあります。
- ・ 世代が上がるほど「子どもや孫が会いに来たとき」と回答する割合が高く、世代が下がるほど「仕事」・「給料」・「友人」・「家族との余暇」・「子どもの挑戦・成長」・「サードプレイスの存在」で回答割合が高いです。

問：あなたはどんな時に幸せだと感じますか。（複数回答）



①幸福度の高め方

- ・幸福度には、個人の内発性に関わる因子が関連しており、その中でも「自分のことを好ましく感じる」ことが、幸福度を高めていく上で重要
⇒義務教育における自己肯定感の醸成に係る取組等が重要と思料
- ・世代が若いほど、「仕事」・「給料」・「友人・家族との余暇」・「子どもの挑戦・成長」・「サードプレイスの存在」が幸福度に影響を与える可能性あり
⇒可処分所得・可処分時間の確保に向けた取組等が重要と思料
⇒自宅と仕事以外に楽しめる、心地よい居場所づくり（サードプレイス）等が重要と思料
- ・高齢世代ほど、「子どもや孫が会いに来たとき」が幸福度に影響を与える可能性あり
⇒親、子ども、孫が近居できる環境づくり、多世代の交流づくり等が重要と思料

②満足度の高め方

- ・「地域の雰囲気心地よい」ことが、満足度を高めていく上で最も重要

移住者(I・Jターン)の場合

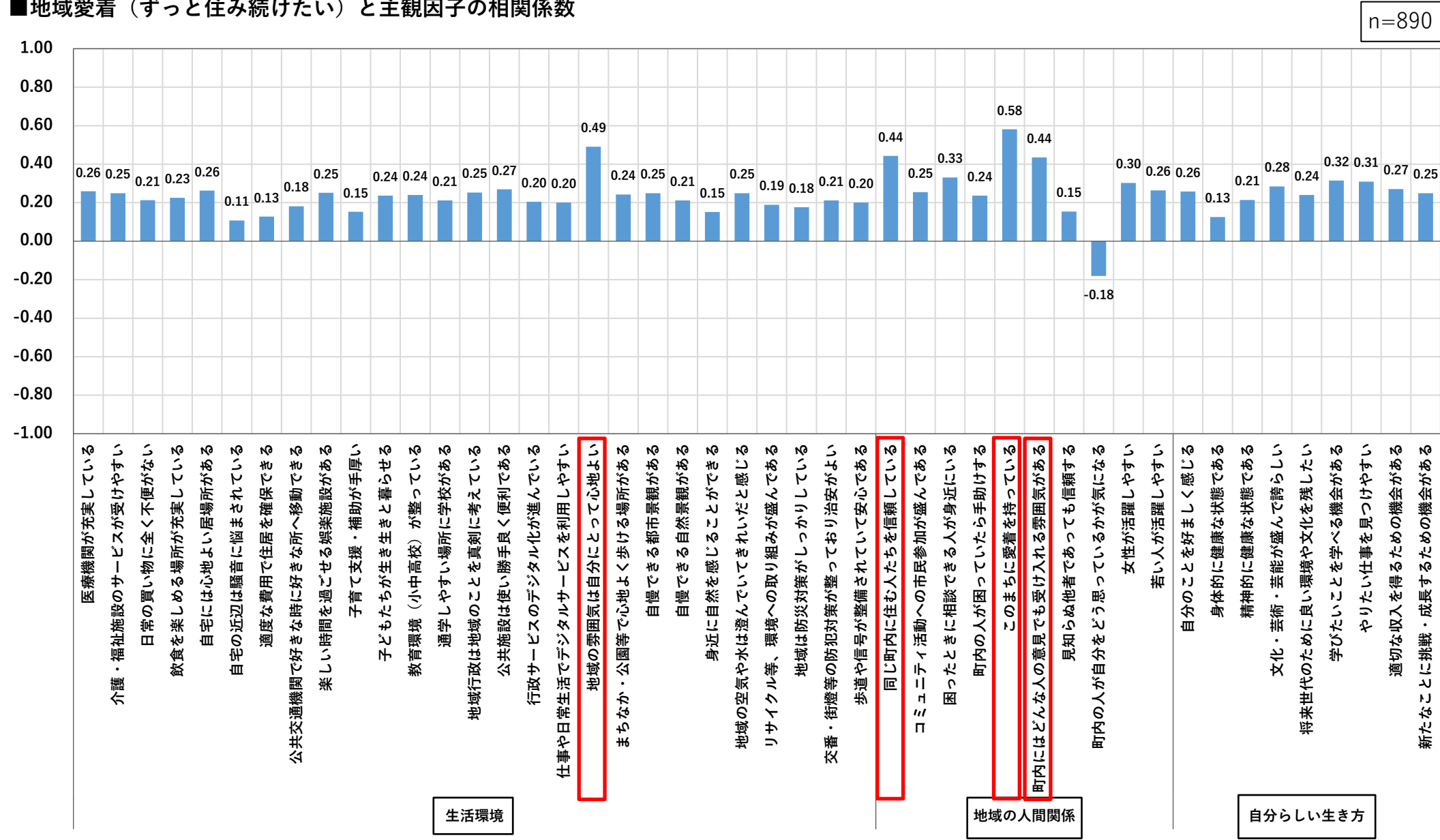
⇒お試し居住して、自分にあった地域を選択して頂くことが重要と思料

定住者の場合

⇒コミュニティ組織に関わり、主体的に地域の雰囲気を変えていくことも重要と思料

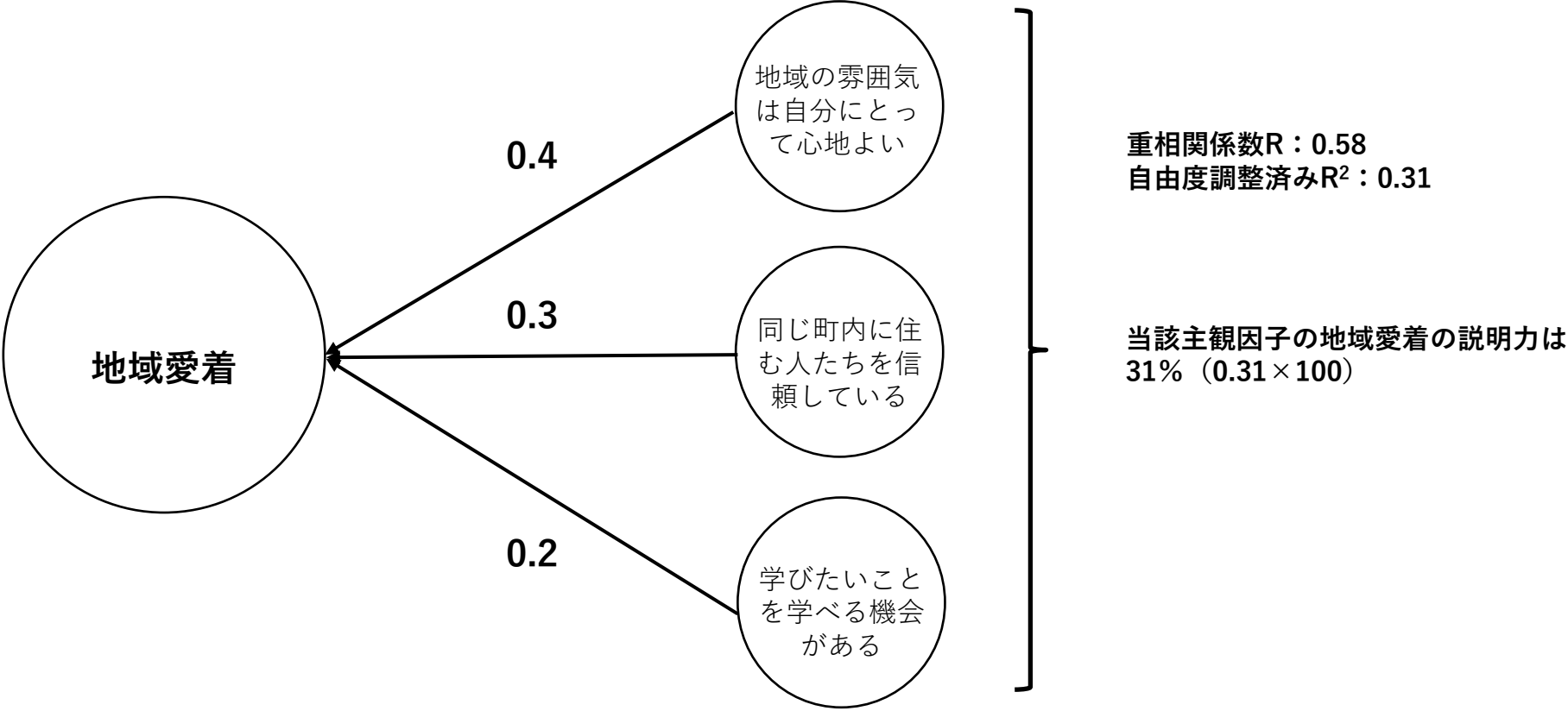
・ 地域愛着と主観因子の相関係数をみると、「このまちに愛着を持っている」、「地域の雰囲気が心地よい」、「同じ町内に住む人たちを信頼している」、「どんな人の意見も受け入れる雰囲気」の主観因子の相関係数が高いです。

■地域愛着（ずっと住みたい）と主観因子の相関係数



・ 地域愛着と主観因子の重回帰分析の結果（決定係数は0.31）より、地域愛着に影響を与える主観因子は以下に示す指標であり、**地域愛着に対する重要度は「地域の雰囲気が心地よい」主観因子が最も高い**です。

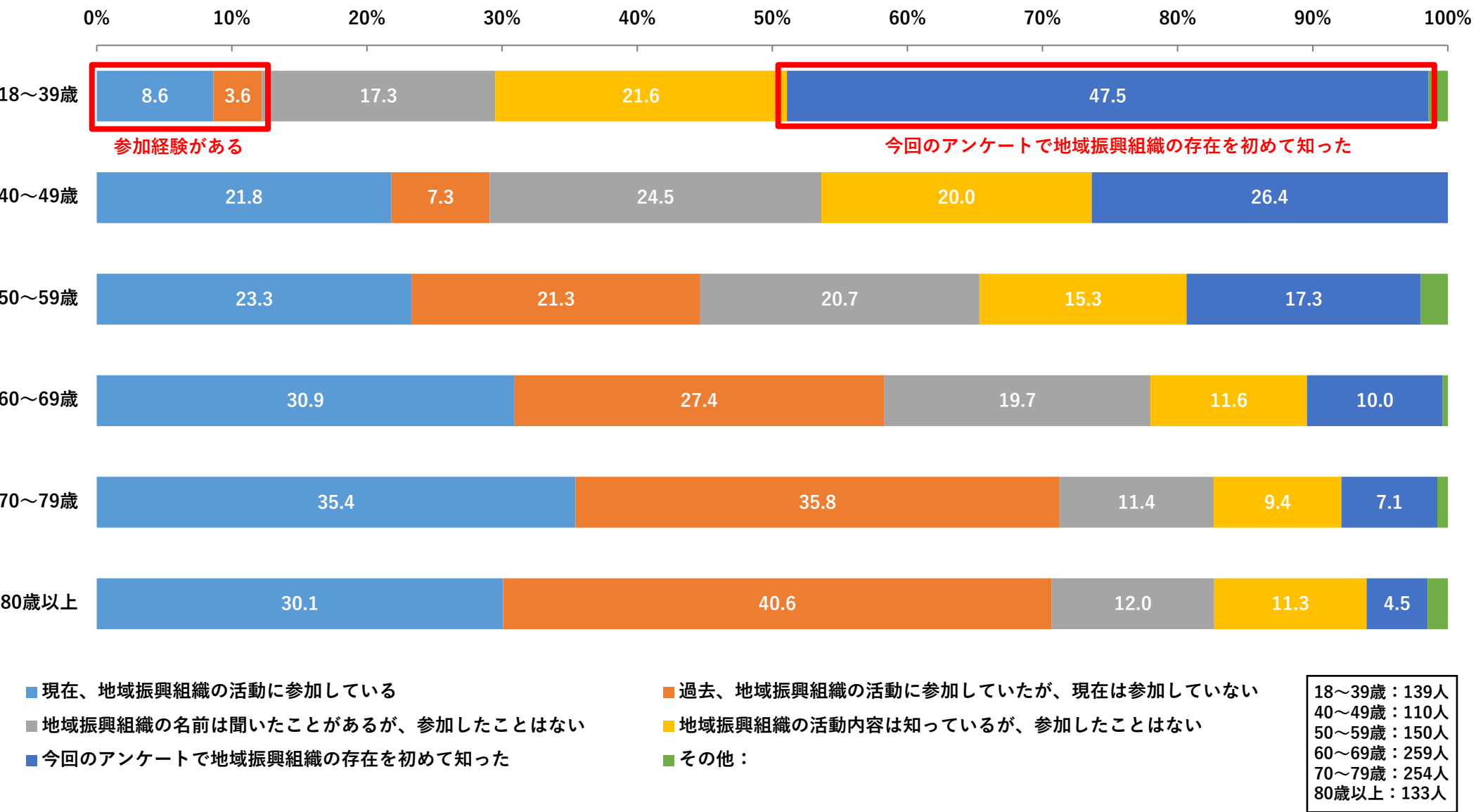
■地域愛着に対する重要度（重回帰分析の係数）の高さ（被説明変数＝満足度、説明変数＝主観因子とした重回帰分析による結果）



注：幸福度との相関係数が0.3以上の主観因子を抽出、その上で主観因子同士の相関係数0.5以上のペアは片方の主観因子を落とし、重回帰分析を実施しています。

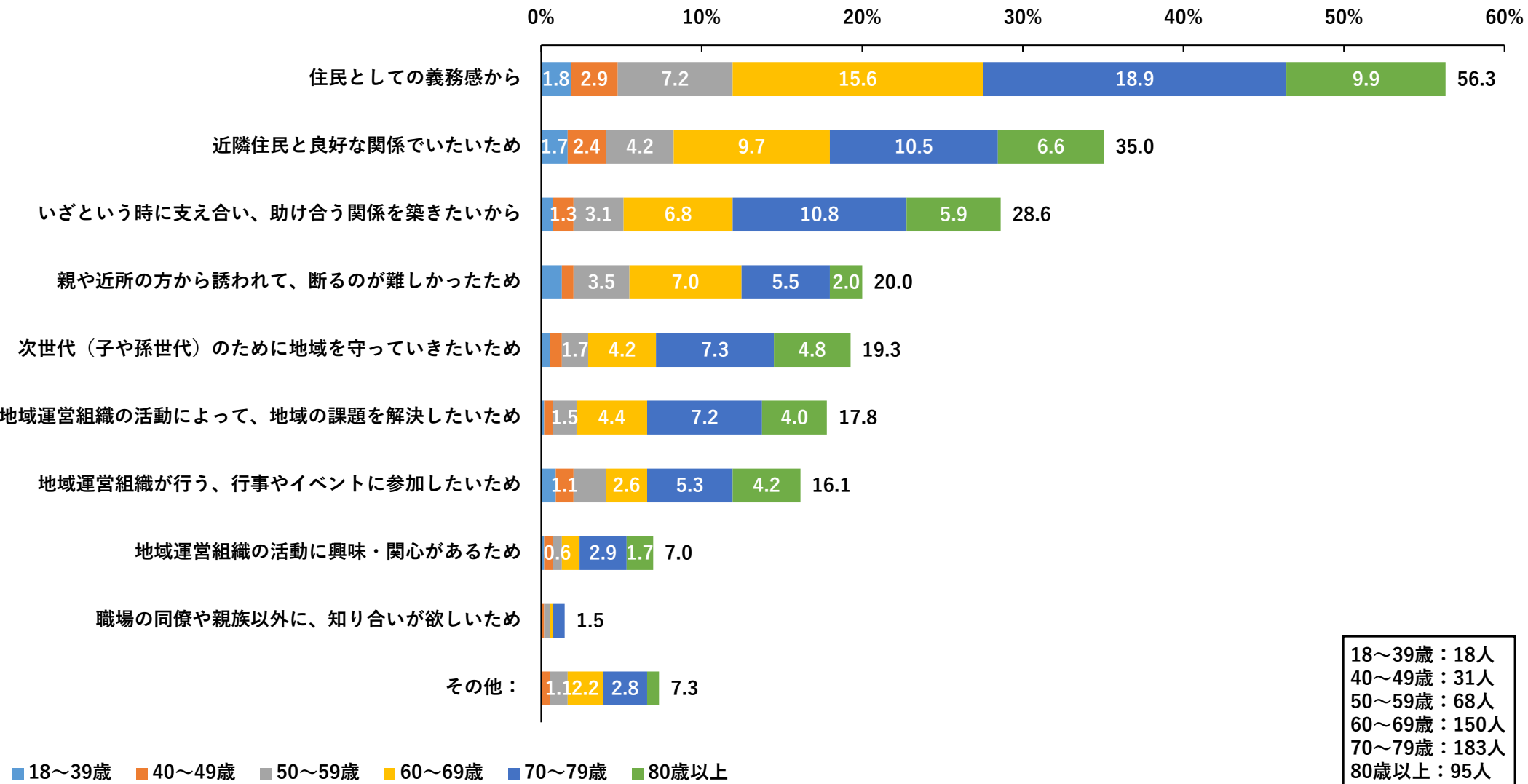
- ・ 世代が上がるほど、地域振興組織の活動への「参加経験がある」割合は増加し、「参加経験がない」割合は減少します。
- ・ 18～39歳の層では、「今回のアンケートで地域振興組織の存在を初めて知った」と回答する割合が約48%を占めており、若年層における地域振興組織の認知度が低いことが伺えます。

問：安芸高田市には32 の地域振興組織が存在します。あなたの地域振興組織への参加状況について、教えてください。（1つに○）



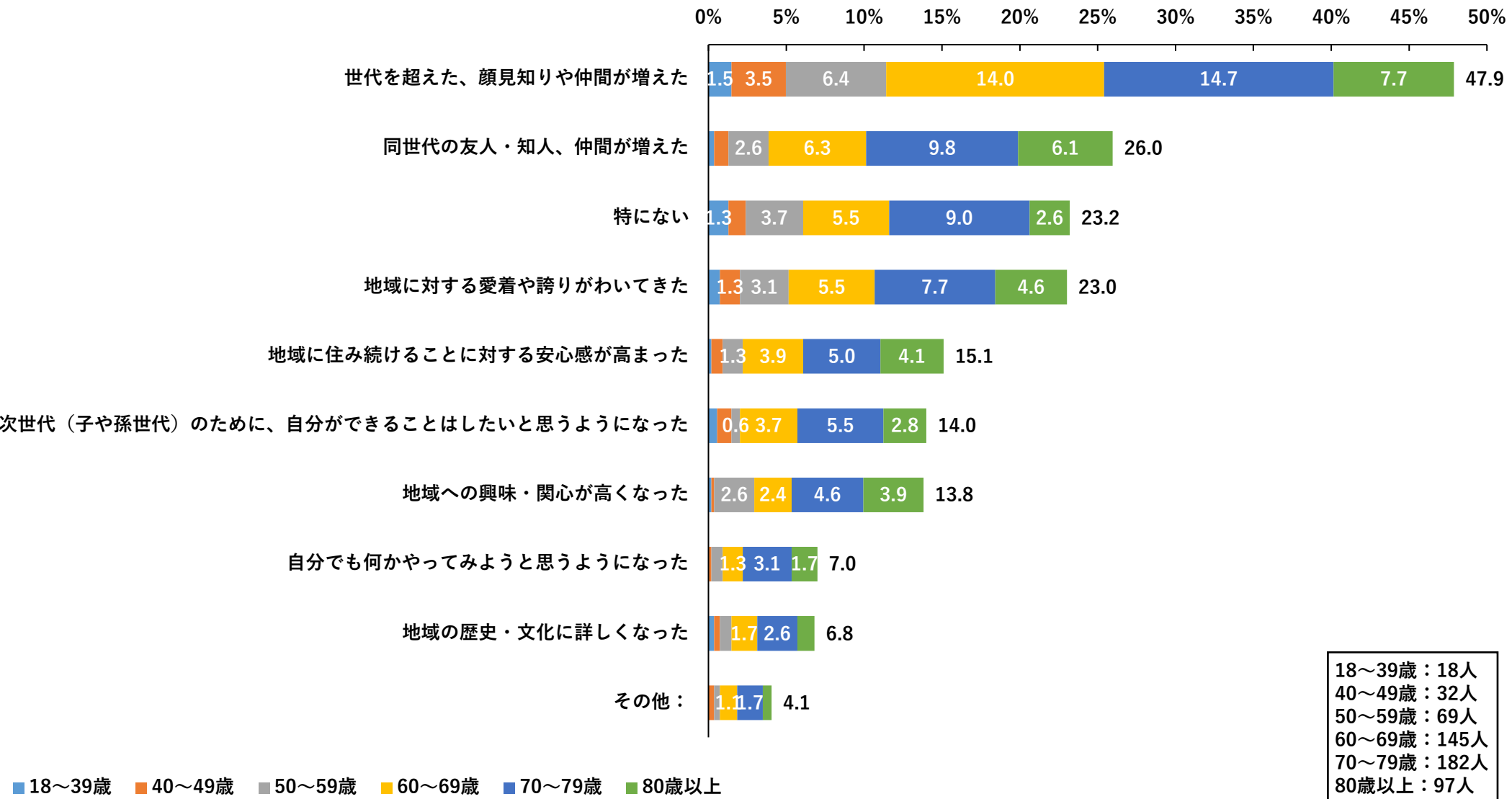
- ・ 地域振興組織の活動への参加経験がある方の参加理由は、「住民としての義務感から」と回答する割合が約56%と最も高く、次いで「近隣住民と良好な関係でいたいため」と回答する割合が高いです。
- ・ 「いざという時に支え合い、助け合う関係を築きたいから」の回答割合も一定程度あり、地域振興組織は地域の共助力を維持するための受け皿となっていることが推察されます。

問：前設問で「1. 現在、地域振興組織に参加している」又は「2. 過去、地域振興組織に参加していたが、現在は参加していない」と回答した方にお伺いします。地域振興組織に参加した理由について教えてください。（〇は3つまで）



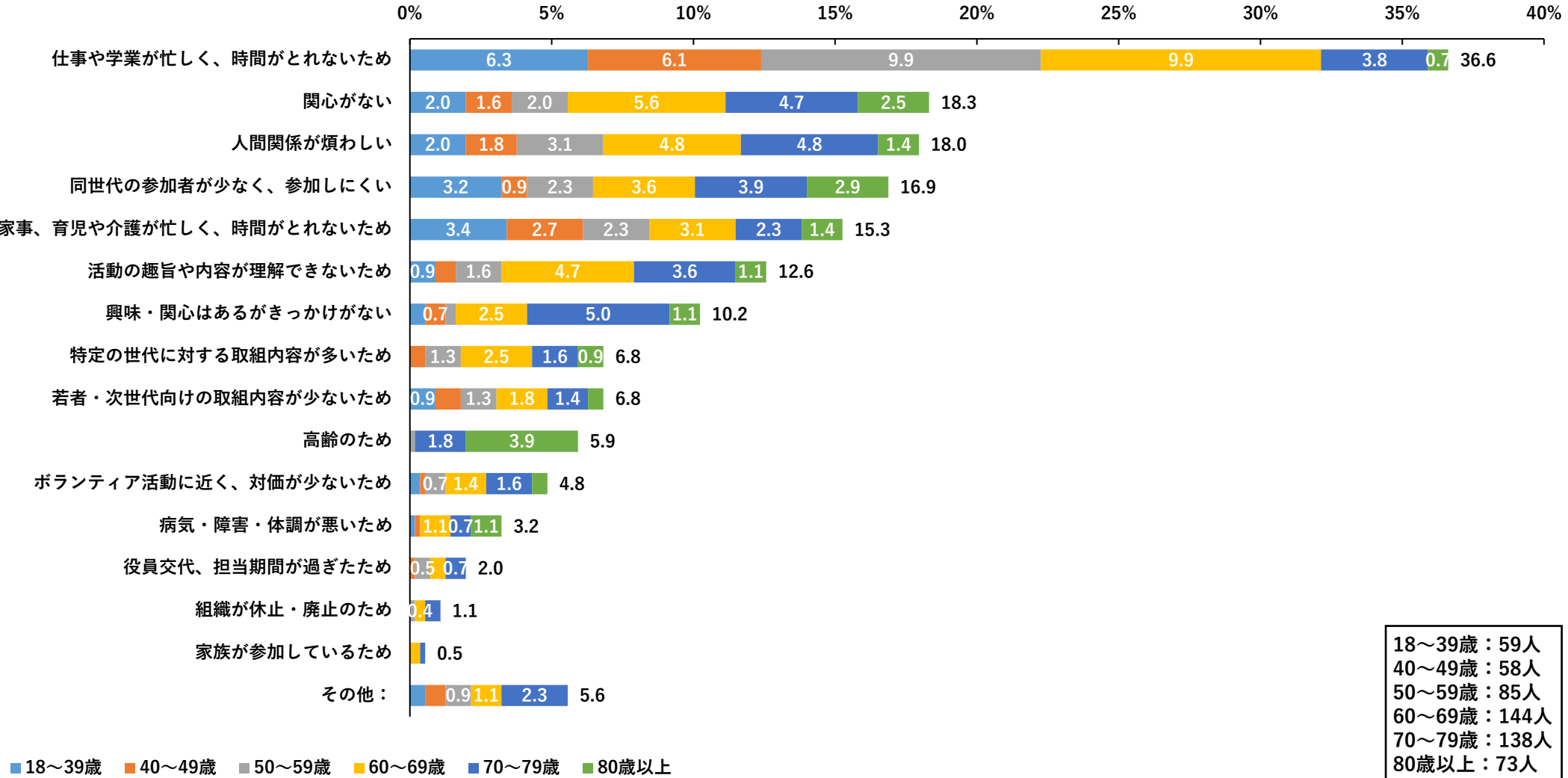
- ・ 地域振興組織の活動に参加して良かった理由は、「世代を超えた、顔見知りや仲間が増えた」と回答する割合が最も高く、次いで、「同世代の友人・知人、仲間が増えた」と回答する割合が高いです。
- ・ 一方で、「特にない」と回答する割合が3番目に高く、約23%となります。

問：前設問で「1. 現在、地域振興組織に参加している」又は「2. 過去、地域振興組織に参加していたが、現在は参加していない」と回答した方にお聞きします。地域振興組織に参加して良かったことについて教えてください。（〇は3つまで）



- ・地域振興組織への不参加理由は、「仕事や学業が忙しく、時間がとれないため」と回答する割合が最も高く、次いで、「関心がない」、「人間関係が煩わしい」と回答する割合が高いです。
- ・若い年代では、「同世代の参加者が少なく、対価が少ないため」と回答する割合も一定数存在します。

問：前設問で「2. 過去、地域振興組織に参加していたが、現在は参加していない」、「3. 地域振興組織の名前は聞いたことがあるが、参加したことはない」又は「4. 地域振興組織の活動内容は知っているが、参加したことはない」と回答した方にお伺いします。地域振興組織に参加していない理由について教えてください。（〇は3つまで）



18～39歳：59人
40～49歳：58人
50～59歳：85人
60～69歳：144人
70～79歳：138人
80歳以上：73人

①地域振興組織の認知度向上

- ・若年層を中心に地域振興組織の存在を知らない市民が一定数存在（18-39歳は約48%）
- ・入口戦略として、**地域振興組織の認知度を高めること、異なる世代をつなぐことが重要**と思料
 - 移住者への対応
 - ⇒転入届の際、居住地域の地域振興組織への参加を促す冊子を配布 等
 - 定住者への対応
 - ⇒義務教育課程における総合学習等の授業で、地域との接点を促す 等

②市民からみた地域振興組織の役割

- ・地域振興組織に参加した理由として、「住民としての義務感」、「近隣住民と良好な関係でいたいから」、「いざという時に支え合い、助け合う関係を築きたいから」という回答が多く、**共助としての受け皿として機能**しているものと思料
- ・また、地域振興組織に参加して良かったこととして、「**世代を超えた、顔見知りや仲間が増えた**」と回答する方が最も多く、**多世代交流の場としても機能**

③地域振興組織への参加を促す行動変容策

【無関心層に対する施策の例示】

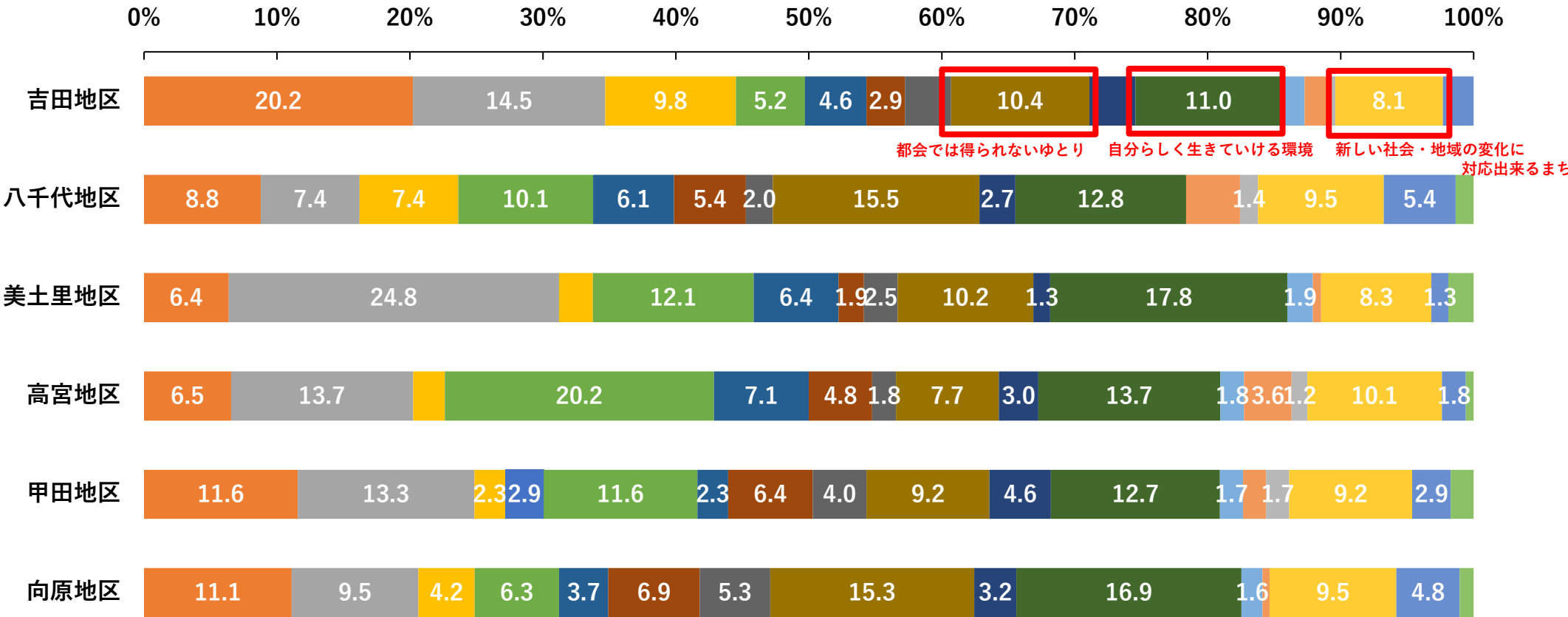
- ・地域振興組織に参加した理由として、「特にない」と回答する方も一定数存在
 - ⇒地域振興組織に参加するメリットをつくる、又は明確化する必要があるものと思料
 - ⇒**イベント等の目的に着目した関わりしろの創出、若い人が挑戦できる雰囲気づくり**が必要 等

【関心層に対する施策の例示】

- ・地域振興組織への不参加理由として、「同世代の参加者が少なく、対価が少ないため」と回答する方も一定数存在
 - ⇒週末だけでも参加できる方等の参加を促す取り組み
 - ⇒地域振興組織の代表を世代別に決めて、各世代が参加しやすい取り組みを促す 等

- ・地区に関わらず、「都会では得られないゆとり」・「自分らしく生きていける環境」・「新しい社会・地域の変化に対応出来るまち」の回答割合が高いです。
- ・地区による違いとしては、吉田地区で「毛利元就の歴史・文化」、美土里地区で「安芸高田神楽の歴史・文化」、高宮地区で「田舎の原風景」の回答割合が高いです。

問：20年後の未来、あなたが次世代（子ども・孫世代）に受け継いでいきたい安芸高田市ならではの価値観【第1位の回答】



- 毛利元就の歴史・文化

■安芸高田わくながハンドボールクラブとのつながり

■地域独自の祭り・イベント

■多様な人材を受け入れる寛容性

■話し合いによるまちづくり

■ライフスタイルの多様化を受け入れるまち
- 安芸高田神楽の歴史・文化

■田舎の原風景（農地や森林等）

■地元商店・企業の取組

■自分らしく生きていける環境

■チャレンジを称賛し合えるまち

■その他：
- サンフレッチェ広島とのつながり

■コミュニティのつながり

■都会では得られないゆとり

■自由を認め合える雰囲気

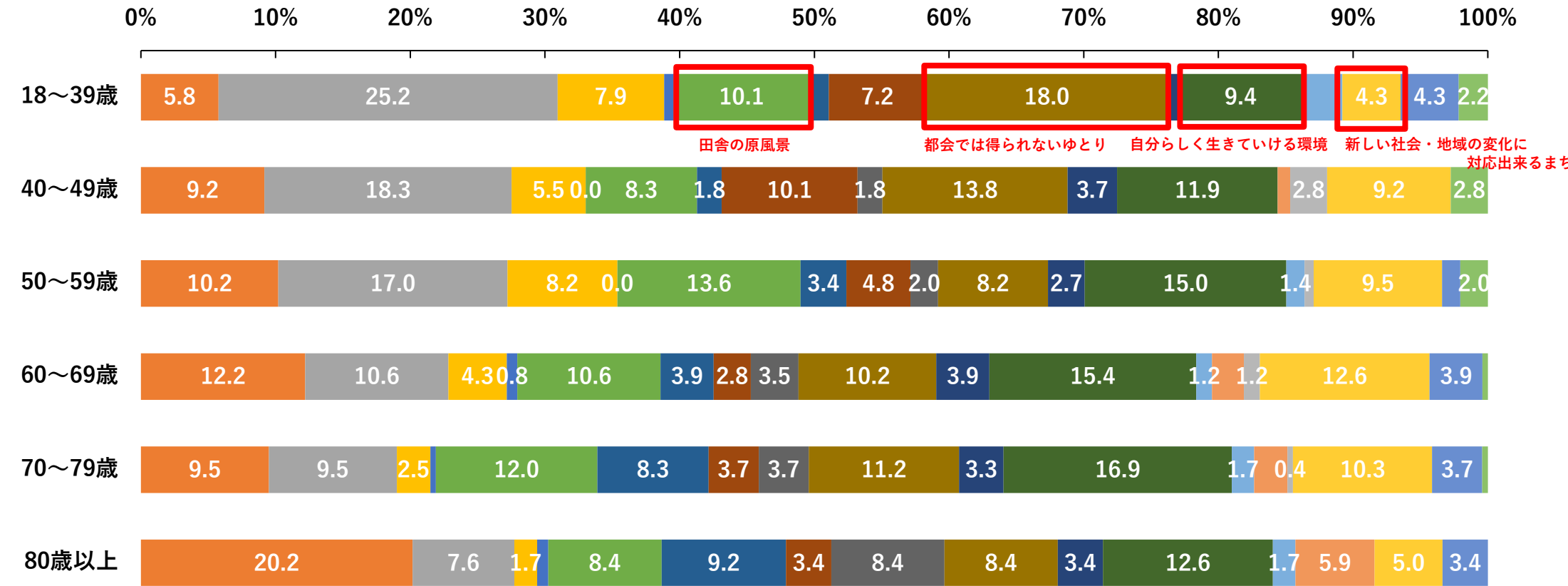
■新しい社会・地域の変化に対応出来るまち

吉田地区：173人
八千代地区：148人
美土里地区：157人
高宮地区：168人
甲田地区：173人
向原地区：189人

・世代に関わらず、「田舎の原風景」・「都会では得られないゆとり」・「自分らしく生きていける環境」・「新しい社会・地域の変化に対応出来るまち」の回答割合が高いです。

・世代による違いとしては、世代が上がるほど、「毛利元就の歴史・文化」の回答割合が高くなり、「安芸高田神楽の歴史・文化」の回答割合が低下する傾向にあります。

問：20年後の未来、あなたが次世代（子ども・孫世代）に受け継いでいきたい安芸高田市ならではの価値観【第1位の回答】



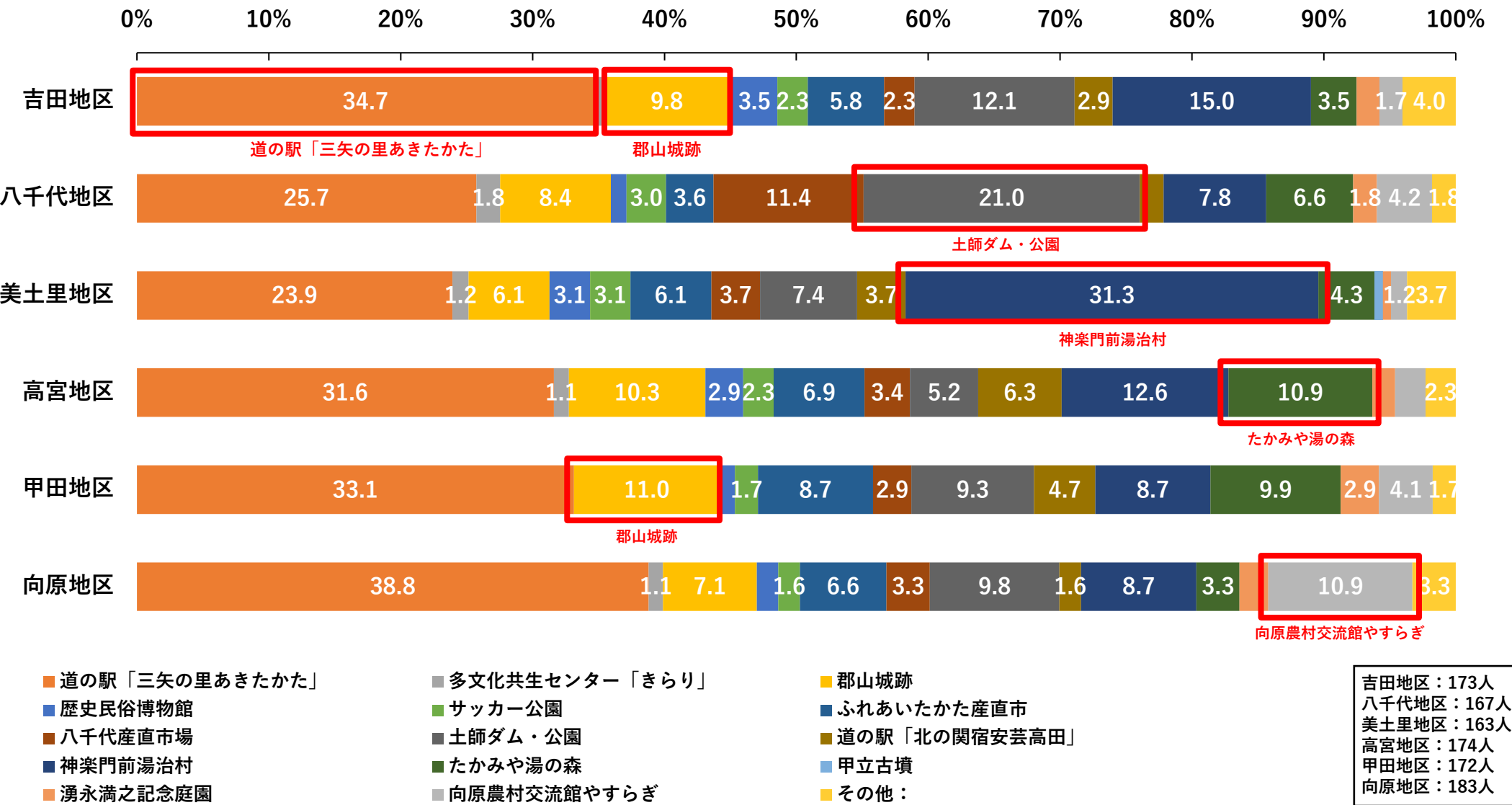
- 毛利元就の歴史・文化
- 安芸高田神楽の歴史・文化
- サンフレッチェ広島とのつながり
- 安芸高田わくながハンドボールクラブとのつながり
- 田舎の原風景（農地や森林等）
- コミュニティのつながり
- 地域独自の祭り・イベント
- 地元商店・企業の取組
- 都会では得られないゆとり
- 多様な人材を受け入れる寛容性
- 自分らしく生きていける環境
- 自由を認め合える雰囲気
- 話し合いによるまちづくり
- チャレンジを称賛し合えるまち
- 新しい社会・地域の変化に対応出来るまち
- ライフスタイルの多様化を受け入れるまち
- その他：

18～39歳：139人
40～49歳：109人
50～59歳：147人
60～69歳：254人
70～79歳：242人
80歳以上：119人

・地区に関わらず、「道の駅「三矢の里あきたかた」」の回答割合が最も高く、次いで「郡山城跡」の回答割合が高いです。

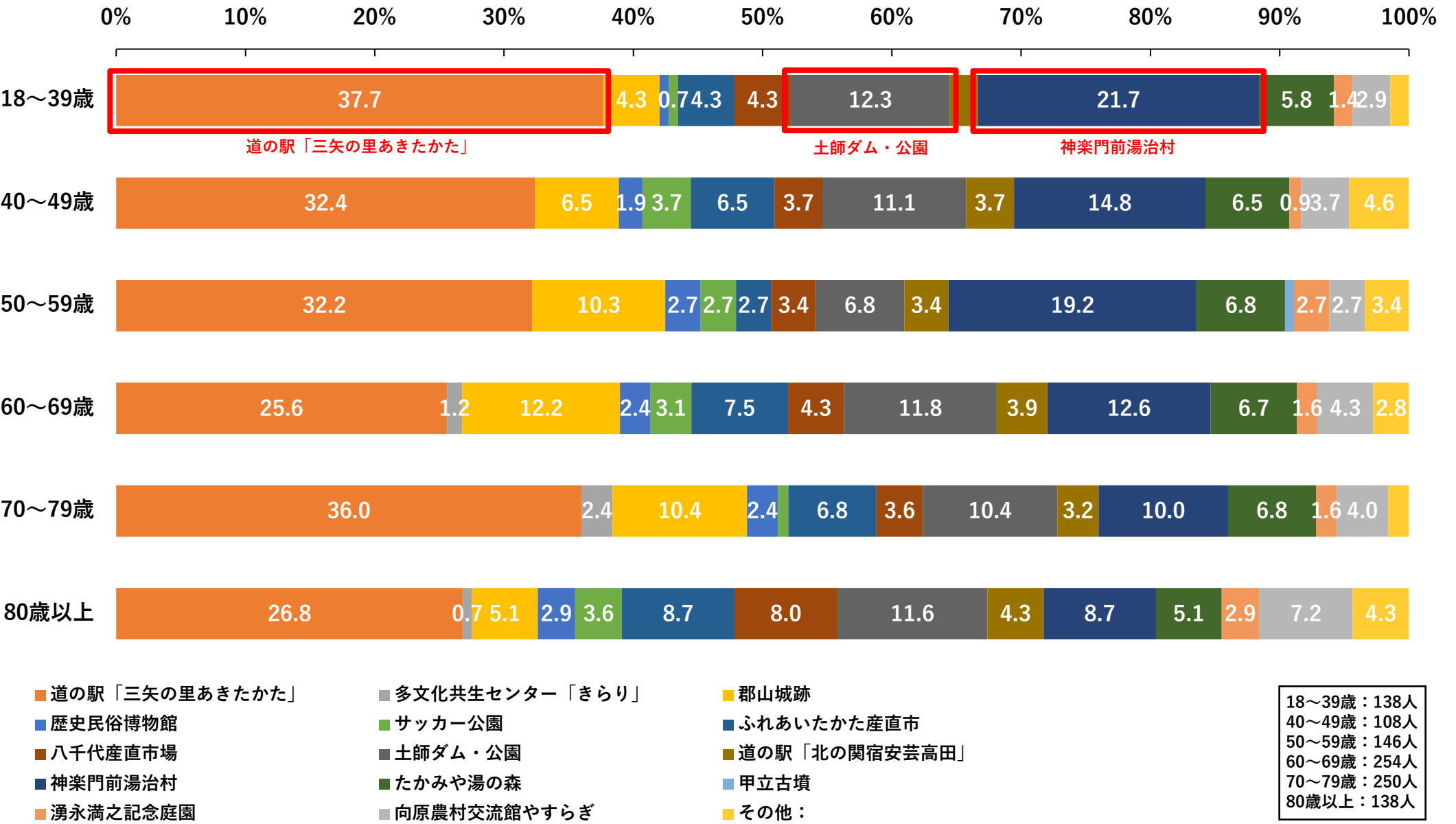
・地区による違いとしては、吉田地区は「郡山城跡」、八千代地区は「土師ダム・公園」、美土里地区は「神楽門前湯治村」、高宮地区は「たかみや湯の森」、甲田地区は「郡山城跡」、向原地区は「向原農村交流館やすらぎ」の回答割合が高い傾向にあります。

問：20年後の未来、あなたが安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設【第1位の回答】



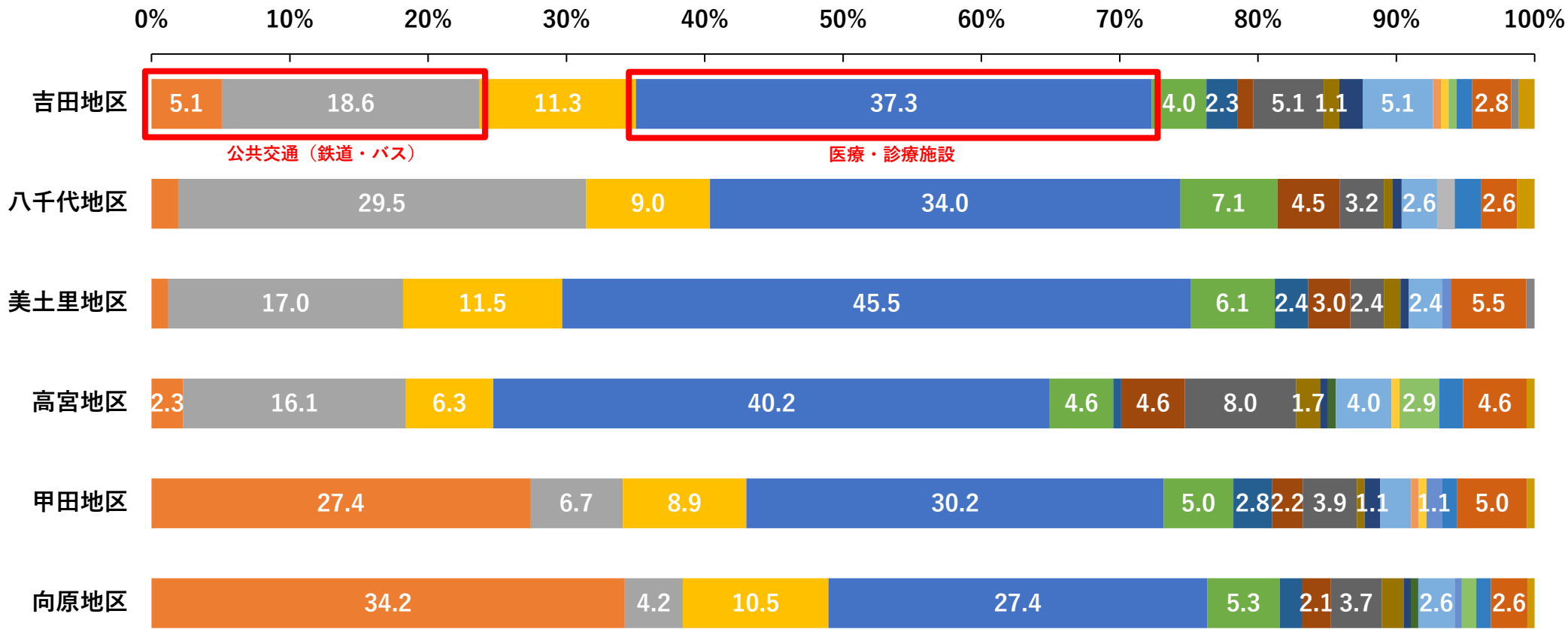
・世代に関わらず、「道の駅「三矢の里あきたかた」」の回答割合が最も高く、次いで「神楽門前湯治村」・「土師ダム・公園」の回答割合が高いです。

問：20年後の未来、あなたが安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設【第1位の回答】



・地区に関わらず、「医療、診療施設」・「公共交通（鉄道・バス）」の回答割合が最も高く、鉄道駅を有する甲田地区及び向原地区では「公共交通（鉄道）」の回答割合が高く、その他地区では「公共交通（バス）」の回答割合が高いです。

問：20年後の未来、あなたが安芸高田市で残していくべきと考える生活機能【第1位の回答】



公共交通（鉄道）

医療、診療施設

市民窓口（支所）

教育施設（高等学校）

文化機能・拠点

生涯学習機能・拠点

雇用確保、斡旋機能・拠点

公共交通（バス）

高齢者福祉機能・拠点

教育施設（小学校）

児童福祉機能・拠点

広場

図書館

社会体育施設（体育館、温水プール等）

小売機能・拠点（最寄品、日用品が買える場所）

防災機能・拠点

教育施設（中学校）

子育て支援機能・拠点

集会所

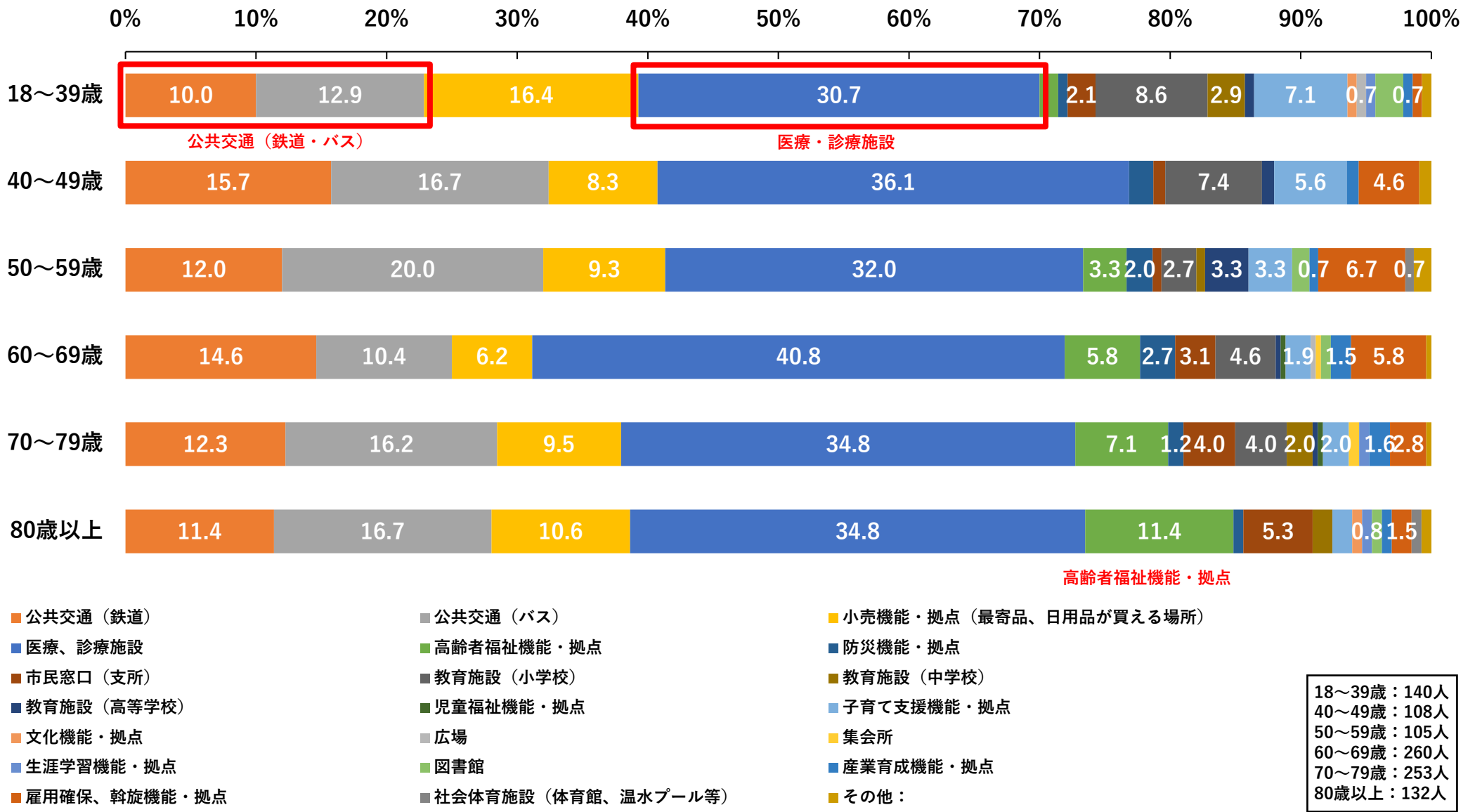
産業育成機能・拠点

その他：

吉田地区：177人
八千代地区：156人
美土里地区：165人
高宮地区：174人
甲田地区：179人
向原地区：190人

- ・世代に関わらず、「医療、診療施設」・「公共交通（鉄道・バス）」の回答割合が最も高いです。
- ・世代による違いとしては、回答割合は低いですが、世代が上がるほど、「高齢者福祉機能・拠点」・「市民窓口」の回答割合が高くなり、世代が下がるほど、「教育施設(小学校)」・「子育て支援機能・拠点」の回答割合が高い傾向にあります。

問：20 年後の未来、あなたが安芸高田市で残していくべきと考える生活機能【第 1 位の回答】



区分	得られた示唆
安芸高田市ならではの価値観	・ 以下に示す①・②の知見より、安芸高田市ならではの価値観として、「田舎の原風景」があげられます。シンポジウムでは、こうした状況を高校生が「中途半端」と表現し、逆に安芸高田市は多様な選択肢が提供されるまちであると考察しています。 ・ また、①の知見の「自分らしく生きていける」・「新しい社会・地域の変化に対応できる」の回答や③の知見より、お互いの生き方や価値観を尊重し合い、チャレンジするまちであって欲しい、という願望もあることがわかります。 ①18歳以上アンケート調査結果より、世代を超えて共通する価値観は以下のとおりです。 ⇒「田舎の原風景」 ⇒「都会では得られないゆとり」 ⇒「自分らしく生きていける環境」 ⇒「新しい社会・地域の変化に対応出来るまち」 ②中高生アンケート調査結果では、「田舎の原風景」が地域愛着との関連が強いです。 ③中高生アンケート調査結果では、「若者の価値観やチャレンジを応援するまち」であって欲しいという回答割合が高い傾向にあります。
強化していくべき機能	・ 世代・地区に関わらず、道の駅「三矢の里あきたかた」の回答割合が最も高いです。 ・ 地区別には以下の状況であり、市全体としては、「道の駅「三矢の里あきたかた」をゲートウェイ機能として捉え、各地区の機能を強化していくことが考えられます。
残していくべき機能	・ 世代・地区に関わらず、「医療、診療施設」・「公共交通（鉄道・バス）」の回答割合が高いです。市民にとって、住み続ける上で必要不可欠な機能（ベーシックインフラ）を回答しているものと思料されます。

・安芸高田市の20年後を見据えた上で、「誰もが住み慣れた地域で暮らしを続けられるまちづくり」が必要と回答する割合が約45%と最も高く、次いで、移住・定住促進、地域医療の体制の確保・強化等に係る回答割合が高いです。

問：人口減少下において、安芸高田市の20年後を見据えた上で、今後どのような取り組みが必要だと思うか教えてください。（複数回答）

